

川湯温泉街まちづくりマスタープラン  
オープンデザイン会議

開催日時：2024年12月17日（火）13：30～15:30

開催場所：川湯ふるさと館

所属		氏名（以下、敬称略）	
弟子屈町	商工観光課	守屋 憲一	課長
		鶴田 裕樹	課長補佐
		佐々木 淑吏	主事補
	建設課	廣川 直樹	課長
		下谷 敏正	係長
		板屋 欣史	技師
環境省	阿寒摩周国立公園管理事務所	田中 準	所長
		末廣 圭司郎	企画官
		吉武 智哉	管理官
		白出 晶太郎	管理官
		豊島 新之介	
北海学園大学		岡本 浩一	教授
札幌市立大学		森 朋子	準教授
街制作室		渋谷 正明	取締役
	プランニング&マネジメント	中澤 和忠	プロデューサー
	アーキテクチャー&デザイン	鳴海 紗恵	プランナー
	プロジェクトコーディネート	高木 千世	プランナー
オンサイト		長谷川 浩己	
		鈴木 裕治	代表取締役
		本田 亮吾	
		上田 啓司	
		浜田 千種	
日本海 コンサルタント	社会事業本部 計画研究室	片岸 将広	担当室長
		五島 真由美	リーダー
星野リゾート	国内企画開発グループ	石井 芳明	プロジェクトマネージャー
蘆田暢人建築 設計事務所		蘆田 暢人	主宰
LEM 空間工房		長町 志穂	代表取締役
摩周湖観光協会		秋山 一夫	参事
		河原 宏	事務局長

## [1]夜間景観ガイドラインについて]

[資料] 川湯夜間景観ガイドライン ver6(LEM 空間工房)

- ・ 前回 WG からの変更点を共有。
- ・ コンセプト

### 夜間景観づくりのコンセプト

#### 源泉の湯けむりと大自然の四季の表情を楽しむ夜間景観

- ・ 環境省光害ガイドライン E1・E2 のエリア表記については、用途空間別の照明ルールにて照明のありようが定まり、エリア分けせずとも全体の明るさはコントロール出来るため、景観ガイドライン掲載時のエリア分けは行わない。
- ・ 駐車場は夜間減灯とする計画だが、防犯のための人感センサーについても記載する。
- ・ 夜間景観ガイドラインの住民周知のため、1/18(土)19(日)に改めて説明会を実施。  
1/18(土)夜間に照明確認を実施。

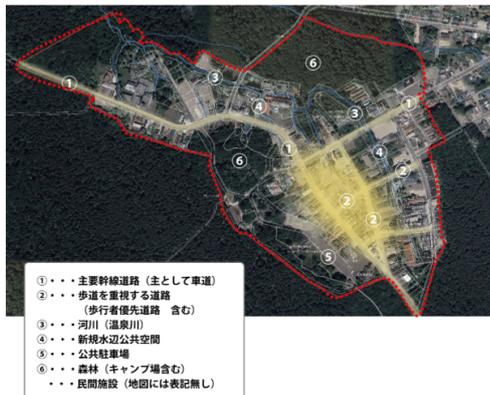
#### ・ 夜間景観ガイドラインのエリア表記について

夜間景観 GL の範囲＝集団施設地区の範囲

川湯温泉駅など含む弟子屈エリアは、今後徐々に範囲を拡大していく予定。(夜間景観・景観)

#### 2. 対象エリア

本計画の対象エリアは、以下の弟子屈町・川湯温泉中心部とします。



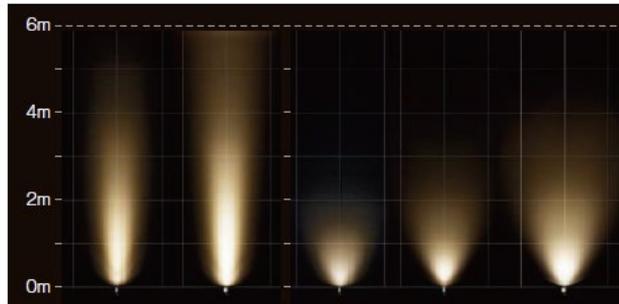
#### ・ 人感センサーについて

煌々とせず、なおかつ安全安心・省エネを図ることが出来る。

#### ・ 配光 3m 以内で本当になくなるのかについて

厳密には音と光は波動なのでなくなることはないが、人間の視覚の中で認識できる範囲がどのくらいかを下図で表記。

「可視光として視認できる光」は、  
光束400lmのこの器具なら、3mでは  
光として視認できない。=何かにあ  
たっても光として見えない。



「光害」の対象として語られてきた光源（水銀灯400Wなど）は20000lm以上の  
の光束があり、30m先でも何かにあれば視認できます。降雨時の高速道路で  
道路照明の光がはっきり見えるのは、雨の粒子が大きくかつ光束が20000lmと  
か40000lmとかの強い光だからです。

光があたることによって視認できる対象物の最小単位が空中の霧や煙だった  
としても、あたって視認できない弱い光束ということです。

視認できない電磁波としての光は考慮していません。

## 住民説明会

日時：1日目 2025/1/18（土）15：00-17：00／夜間照明実験：17：00～30分程度

2日目 2025/1/19（日）10：00-12：00

場所：川湯ふるさと館

検証場所：岩盤テラス両サイドの樹木、橘屋の白塀、橘屋エントランス(店舗前照明確認として)、  
湯ふいん敷地樹木(セットバック樹木照明確認として)を想定。

実験：電気容量確認

事前申込とし、1/19は申込が0の場合は土曜日のみとする。一人でもいれば開催。

照明確認は文字だけでもわかりにくい部分を実際に見ていただき、不安を解消することが目的。

## [2)川湯テラス]

[資料] 川湯テラス導入機能案(街制作室)

今年度川湯テラス基本計画策定のための諸条件の確認

・他温泉地の事例紹介(別府、黒川温泉)。

- ・既存飲食を圧迫せず、観光需要に応じた施策が必要。現状把握のため、店舗の規模感など既存飲食店へのヒアリングを行う。
- ・新規出店店舗が採算がベースとして取れるのか、繁忙期・閑散期の席数も考え事業シミュレーションを行う。

#### 〈橋屋の内見調査結果〉

- ・構造はほぼそのまま使用可能。雨漏りは少しあるが、床下設備スペースがあるため配管設備工事はやりやすい。耐震補強必要だが、見た目に影響なく工事可能。
- ・建物の一部をリノベして使用検討。河川側建物は岩盤エリアと一体化させる。
- ・弟子屈町で作成発注中の解体図面の確認を行う  
(建設課より、残すべきところを図面に示してほしいとの要望)
- ・その他建物もリサーチを行い使えるものは使う。

### 1\_エリア特性・導線

- ・街の主要道線となる河川沿いを確保するため、隣接する町有地を歩行空間として確保。  
(弟子屈町さんに要確認)
- ・河川空間へのアクセスを町道や町有地を利用し確保する。
- ・広場を設け飲食店街と河川へのアクセス空間とする。



### 2\_導入機能

- ・敷地①、②に優先的にホテルを誘致。既存の川湯のホテルが約300室、「界」および新規ホテルが加わると約500室になる予定。将来的にはマスタープランで検討した450室程度になる想定。
- ・河川沿いのショップ等は、歩行空間と一体感を出すために一部河川敷地へ越境。  
(弟子屈町さんに要確認)
- ・敷地③は将来的な開発のリザーブ用地として、ホテル宿泊、日帰り、住民用の共同駐車場とする。
- ・敷地⑤は、緊急避難場所として建築が出来ないため共同駐車場として整備。



## 敷地②：ホテル誘致敷地

飲食店客向けの暫定駐車場と定め、その先に誘致が成功したらホテルとする。

それまでは、路上駐車場対策と飲食店客向け駐車場対策の敷地とする。

暫定駐車場といえ、どこまで整備が必要か決める必要がある。アスファルトを敷くのかなど。景観としてずらっと車が並ぶのは課題となる。

対策案：敷地用途に関わらず敷地間口に応じたセットバックは必要となるので、予め緑地をつくり、バッファをつくることで軽減させる。早くて2~3年、長くて5年ほど暫定駐車場になる可能性がある。これから除却する場所から植樹できるものがないか調査する。

## 敷地③：広場に伴う商業施設の誘致

将来的な店舗施設規模は想定。

大屋根軒先をガラスで仕切り、冬も客席として使用できる店舗イメージ。ピーク時に合わせて大きいものを作るのではなく固定的な建築部分は小さくし、シーズンによって違う装いで対応。味楽寿司、源平側の空き地は、暫定的な広場として2025年より活用予定。年明けから料飲店組合を中心に議論し用途を決める。

キッチンカーは飲食店の休みが多いタイミングで手伝いに来てもらうような対策を考える。

敷地活用にもなる。

→暫定利用とはいえ、川湯エリアの魅力向上に繋げる必要がある。また、仮店舗を設置した場合、本整備時にも活用するのか、解体し新たに設置するのかなど、先を見越した検討が必要。何年かけてやるのか、年次設定していく必要がある。

→仮店舗機能を橘屋へ設けるなど、橘屋のリノベ利用と並行して検討を行う。

## 敷地④：橘屋の敷地

今年度の基本計画エリアから外れていたが、岩盤テラスが完成して人が集まって来たことから、今年度から活用検討するべきではないか。

建物はいくつか棟に別れており擁壁のところは高低差が大きいのが、河川に面した建物はレベル差が無いので、うまく活用出来るようにしたい。

例) 足湯につかりながらお酒を楽しめるBARなど

## 河川敷地について(建設課より)

敷地③の河川敷地が広すぎ、敷地①は河川と近すぎるなど、河川敷地の整備が必要。

→川湯テラスの基本計画にて歩行空間をデザインし、その計画を見ながら河川敷地境界を新たに定めていく。

- ・この幅であれば河川管理できるという幅
- ・河川を活用していくのに必要な幅

両面で検討しながら土地を確定させて、協議しながら基本計画など進めて行きたい。

## 駐車場について

大きな方向性としては、温泉街の縁に車を止め歩いて回遊してもらう事。

シーズンによってたくさん人が来るときは外側の大きな駐車場に停めてもらい、地元向けに、一部、町の中に止められる小さい駐車場もあると良いのではないかと。

一気になくしてしまうとハレーションがおきやすい。

歩いて楽しい空間が出来るまでは、最初は近くの駐車場が必要と考える。

## 橋(KKR 横)の撤去について

### 〈建設課より〉

実際に使用している住民もおり、現時点で橋を無くす検討はハードル高い。

まずは歩行者専用にし、その後段階的に検討すべきでは無いか。

歩行者専用として残すのであれば緊急車両が通れば問題ない。

### 〈専門家より〉

橋は残して、照明を活用し、橋の下を人が通りたくなる空間を作ればよいのでは。

やるなら歩行空間が広く取れる左岸側を通るのがよい。

ただし、温泉の影響で照明設備が持たない可能性がある点が懸念材料。

眺望的なことも含め、将来的に少し高いところから見るポイントの橋を作ることは考えられるが、コストを考えてメリハリをつけて進めるべき。

## 岩盤テラスの通行者数について

観光協会より：感知センサーがうまく作動していない。雪で反応したりして、明らかに多い。

## その他、意見

- ・川湯温泉に来た時に必ず立ち寄る場所が必要。
- ・新しい店舗、新しい人ばかりではなく、既存住民の意見も大事にしてほしい。その為のWS開催は続けるべき。
- ・繁忙期が夏と思われるが、川湯の魅力は冬。冬を楽しめるまちづくりが必要。また、霧氷の良さがまだまだ知られていないのがもったいない。必ず武器になる。
- ・川湯広場について、やはり、自然の中に流れる真冬の川の中に人が浸かれることが、最大限のキラースポットであるはず。
- ・川湯テラスの動線だけでなく、エリア全体の動線順位づけが必要
- ・エリア全体のロードマップ整理を行う
- ・機能的整理も重要だが、行為の実現（＝体験してもらうこと）が重要

## 次回のオープンデザイン会議

日時：2025/1/31（金）13：30～

場所：川湯ふるさと館